

新展示「Metal Factory」概要

2016年3月18日内覧会配布資料

日本鉱業協会は2016年3月18日(金)に科学技術館(東京都千代田区北の丸公園2番1号)において、銅、鉛・亜鉛、金、銀、ニッケル等の非鉄金属の分野をテーマとして、小中学生を中心として広く一般の皆様を楽しみながら学んでいただける展示ブース「Metal Factory」を開設いたしました。

日本鉱業協会は、銅、亜鉛、鉛、金、銀、ニッケル等の非鉄金属における鉱業と製錬業等に係わる企業の団体です。日本は非鉄金属の原料となる鉱物資源のほとんどを海外鉱山から調達していますが、業界では、海外における鉱山開発への参加や自主開発を行って鉱物資源を獲得し、それを製錬加工した非鉄金属材料をわが国の産業界に安定供給しています。また、鉱山や製錬で培ってきた技術を活用して、新材料の開発、資源リサイクルの推進等にも取り組んでいます。

展示企画にあたっては、世界中で鉱山を採掘し地球規模の大きなスケールで事業を展開する一方、そこから製錬された多様な非鉄金属材料が、身近な製品の小さな部品にまで利用され、私

たちの暮らしや社会の隅々にまで浸透していることに着目し、その両側面を対比的に描くことで、業界が担う社会的な役割の大きさと価値の高さを印象づけたいと考えました。

展示は複数のテーマからなっており、珍しい形状と色彩をもつ鉱石を実物で展示した「**鉱石のいろいろ**」と、非鉄金属が身近なものに使われていることを製品の展示で示した「**くらしと非鉄金属**」のコーナーを左右に配して、対称的に構成しました。

中央の映像ディスプレイには、2種類のゲーム・コンテンツが用意されており、世界地図上で非鉄金属の主要な産出国を探し当てる「**金属鉱山をさがせ!**」と、日常生活シーンから非鉄金属が使われている製品を探し当てる

「**暮らしの中の非鉄金属製品をさがせ!**」を体験することができます。

また「**銅製品ができるまで**」では、銅鉱石の採掘やリサイクル品の回収から、製錬工程を経て、銅線や銅管等の製品になるまでをスゴロク形式で辿ってみることができます。

「**非鉄金属製品のリサイクル**」では、携帯電話や電池が廃棄されたごみの山を示しながら、実はその中には貴重な非鉄金属が含まれており、リサイクルすることで重要な資源となる「**宝の山**」であることを表現しました。

展示を通じて子どもたちが、非鉄金属に対する理解を深め、世界中の鉱山から運ばれてきた鉱石が、身の回りの様々な金属として役立っていることを感じ取ってほしいと願うものです。

